



(編集担当)

残暑お見舞い申し上げます。
まだまだ暑い日が続きますが、せっかくの夏休みです、リフレッシュして2学期をのりきりましょ
う!!

総括主任より



今月号から、各地域の総括主任さんにインタビューして、その意気込みを伝えるコーナーを企画しました。全体に伝えたいことや日ごろ感じている事等を話してもらい、全体への情報発信の場に使ってもらえればと思います。今回は四万十市の総括主任である さんに、「学校事務の共同実施はなぜ必要なのか」を聞いてみました。意見や感想などありましたら、あすなる作成委員までお知らせ下さい。次号以降に掲載していきたいと思っています。

共同実施はどうして学校事務職員に必要なの？

「共同実施は、手段であって、目的ではない。」良く言われる言葉です。では、何のための手段なのでしょう。

1998年9月、中教審は「今後の地方教育行政の在り方について」で、学校の自主性・自律性の確立として、「校長・教頭への適材の確保と教職員の資質向上」「学校運営組織の見直し」「学校の事務・業務の効率化」について答申を行いました。

この答申後、各地で「共同実施」への取り組みが加速しました。その背景には、義務教育費国庫負担制度（以後「義務費」）から学校事務職員と学校栄養職員を除外するという国の動きがあり、また、自主性・自律性が求められる中、学校事務は複雑化を増す一方でしたが、事務のアウトソーシングの動きや、職のあるものが昇級する仕組みとなったこと等、学校事務の中心的担い手であるはずの学校事務職員の職そのものが不安定な状態であったことがあげられます。また、共同で事務を行うという新しい形の中に、「一緒に働く仲間を求めた」ということもあります。

一人職種である、学校事務職員は絶対多数の教員の中で、経験年数や個人の能力の程度に左右され学校の中で「学校事務」を確立させることに大変な労力を要していました。そこで、地域の学校事務職員が集まって「共同」で学校事務を実施し、一人では解決できないことを複数人で解決したり、複数人で処理することで限られた時間を有効に使うという事務の効率化を行いました。これは、事務研の活動でも出来るではないかという意見もありますが、共同で行う事務の範囲が広いことや、「勤務」として月に2回程度集まること、兼務発令があることなど、事務研という研究活動の中できめ細かな活動を行うには、限界があります。特に兼務発令は、「自分の勤める学校」から「自分の勤める地域の学校」へと視野が広がることや、書類の相互チェックや兼務先の学校の書類の作成など責任の重さという点で事務研の活動とは大きく違うところです。さらに、根本的な違いは、共同実施の活動が「設置者等から通知・要綱・辞令等様々に明文化された制度的な根拠がある」ことです。

初めての勤務形態で当初は、何をしたら良いのか戸惑いもありましたが、役割分担や自分の仕事内容をチェックされることなど、共同実施のメリットは大きいと感じています。

共同実施を行うことは、地域内の学校事務職員の資質の向上に繋がり、どこに勤めても同じ質の「学校事務」が提供できるということになり、学校事務を事務職員「個人」の評価から、まだまだ不十分ではありますが、学校事務という「職」の評価へと変化させたと私は思っています。

給料は、小中学校の事務職員で働く以上、総括主任にならないと4級にはなりません。県立学校は、事務長の配置があるので、最高6級までいきます。共同実施の長に「事務長」を配置するという動きもあり、共同実施はこの身分上の改善のための手段としても重要です。「自分たちの仲間には上司はいらない」という意見もありますが、私はそうは思いません。上位の職も無く、身分上低く抑えられたままで仕事をやるよりも、共同実施によって「事務長」という上位の職が得られるのであれば、それを利用することは合理的であり、将来の展望も拓けます。「小中学校事務職員の職が仕事内容でも身分でも魅力あるものとなるようになって欲しい」ともうすぐ職を辞する者としては切望します。

学校の中には、一人職種は事務職員だけではなく、養護教諭も、そして義教費からの除外を教諭になるという手法で逃れた栄養教諭も一人職種です。では、なぜ「共同実施」を行わないのか、少し乱暴な理論かもしれませんが、『「職」が安定している』からだと思います。

「学校事務職員は、不安定な立場にあるからこそ、共同実施に取り組み、努力をし、勉強をし、生き残る方法を考え、成長した」と思っています。

あと数年で定年退職を迎える私ですが、退職までに「共同実施」という形以外にもっと素晴らしい方法が始まるかもしれません。その時は若い人の足を引っ張らないように、おばさんも頑張りたいと思います！

西土佐中学校 総括主任

変化が必要なとき、大変な労力が必要になってきますよね。時代も変わってくる中で、この方法が一番いい!!と言うものは、すぐには見つからないと思います。色々な地域で、地域にあった形の中から、よりよい方法が見つかるといいなと感じました。頭で考えるより、実際やってみないと分からないことは多いと思います。それが成功するか?しないか、それもやってみないと分からないことですよ。色々な思いがあって当たり前で、そこを活かしながら知恵を出し合っていけたらなと思いました。

(文責:)



研究部でいっしょに勉強しませんか？

研究部員下川口小

私は研究部に入って4年目です。入ろうと思ったきっかけは、同期の友達がいっていいことを聞いたときです。同期のその友達において行かれたくない。と思い参加しました。

はじめは研究部に入っても、やっていることもたいしてわからず、宿題となった課題に対して形式などきちんとできていないと、自覚が足りん!!などという、厳しい発言もあったりしてこわかったです。

でも、学校事務という仕事に対する責任感や、研究に対して取り組む姿勢の懸命さは素晴らしいと思います。わたしも、自分の仕事に対してきちんと考えなければいけないと思うようになったのは研究部のみなさんの熱い思いに刺激を受けたからです。

研究する内容によっては、憂鬱になるときもありますが、それはそれで、職場やそれぞれの地域にかえて、自分の考えを改めて整理するきっかけにもなります。

今年度は学校経営の手引き(事務職員版)に、新しく4つのテーマを加えて研究していくことになりました。「学校評価」「財務」「危機管理」「教育課程」です。

今はこのテーマでどのように研究していくのか、それぞれのグループで考えているところです。研究部に興味のある方、入って勉強してみようかな?とおもって迷っている方、時期としては今が一番いいと思います。

わたしたちと一緒に研究していきませんか?体験入部(?)もOKです。近くの研究部員に声をかけてください。

執行部より

5月の支部研修会の際、講演をしてくださった さんに講師料を準備していましたが、ご本人から東日本大震災の義援金にしたいという希望がありましたので、会計の方から送信させて頂きましたことをご報告します。

研修会報告 公立小・中学校事務職員研修（ステージⅢ発展）報告

四万十市立利岡小学校

8月1、2日にステージⅢ発展の悉皆研修に参加してきました。採用20年次対象の研修会でしたが、改めて年数を聞くと、それだけの仕事ができているのかと考えさせられました。今回の研修では今の自分にできること、しなくてはいけないことなどのヒントがたくさん得られた気がします。

1日目は神戸市立青陽須磨支援学校 教頭 先生の【学校事務職員のマネジメント】と題した講義・演習でした。学校事務職員、学校事務指導主事等いろんな職種を経験されている先生でしたので、それぞれの立場から見た事務職員についてのお話もしていただき、大変参考になりました。その講義の中で心に残っているのが、「条例・規則を押さえなければ運用はできない。」ということ、また「事務職の方はできない法律を探すことが多い（ネガティブ）が、できる法律を探す（ポジティブ）ことが大切である。」ということでした。私自身そうだったなあと反省したことでした。今後はプラス思考を意識し、見方や発想を変えることで、より円滑に仕事ができる環境になるよう取り組んでいきたいなと思いました。その他にも「協働」、「ヒューマン・スキル（どのような職種であっても仕事を円滑に進める上で必要となる対人能力）」の大切さについても印象に残りました。午後からの危機管理の研修の中では、「防災はできなくても減災はできる」というお話を聞き、家庭でも学校でも早めにもっと具体的な準備をしておく必要があると感じたことでした。

2日目は教育センター チーフの【リーダーシップと人材育成】の講義・演習でした。自分がまだ周りの先輩方に育ててもらっているという意識でいたので、すでに採用20年になり、若い方を育ててはいけない立場になっていることに、今まで如何に自分が甘えていたかと恥ずかしくなる思いでした。その後も【課題解決】や【メンタルヘルス】の講義等受けましたが、どれも最終的な感想としては、基本的な事かもしれませんが、自分自身や組織について知ること、そして客観的に見つめてみることで、その上で目標をたて、できることから少しずつ考え取り組んでいくことが大切であると思いました。

2日間の研修でしたが、研修内容はもちろんのこと、久しぶりに同期の事務職員の方にも会うことができ、大変刺激になり楽しい研修会になりました。

研修会報告 公立小・中学校事務職員研修（ステージⅢ発展）報告

土佐清水市立下川口小学校



「学校事務のマネジメント」・「リーダーシップ」・「課題解決」・「メンタルヘルス」と、たくさんの講義、演習がありましたが、その中で一番印象に残った『メンタルヘルス』について報告します。

講師は土佐メンタルヘルス研究会の産業カウンセラー さんでした。

気持ちよい人間関係を築くために、自分はどうしたらいいか？

それには3つ大事なことがあって、まず第一に、自分の交流パターンに気づくことだそうです。例えば、自分がどういう考えをもっていて、どう感じているか？そして、どういう行動をとっているか？に気づくこと・・・。

そうして自分のことが理解できると、自然に周囲の人のことも理解できるようになるそうです。

2つ目には自発性が大切で、自分が今までとは異なった視点や考え方で、少し違った行動をとってみること。たとえ相手や状況的なことが変わらなくても、自分の感情を変えることができるようになるそうです。

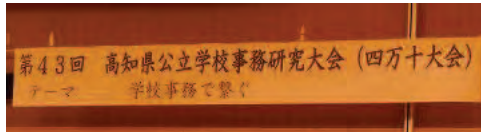
3つ目は、心の底から本当の気持ちを伝え、（私はこれが一番難しいと思うのですが・・・）相手も心からのメッセージを伝える親密さが大事ということです。これは相手を操作したり、相手の言いなりになるということではなく、互いに自分で自分の気持ちに正直になって、それを表現できるような関係のことをいうそうです。

最近人間関係がうまくいかなくて精神的なストレスをかかえて、そのために病気になったりする人が増えていると聞きます。

先生の話聞いて、人間関係を良い方向にもっていくには、相手への思いやりはもちろん、自分から変わっていくこととする考えも大切だということに気づくことが出来ました。これからはそういうことも、意識して過ごしていきたいです。



県大会の様子



大会テーマ



1日目準備中



スタッフTシャツ



受付



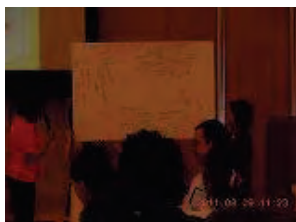
駐車場係



駐車場係



キャンティーズ登場!?



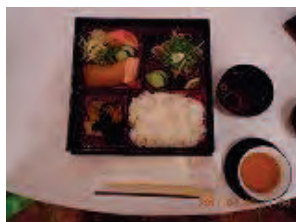
研修風景



研修風景



研修風景



2日目お弁当



大じゃんけん大会

二日間の研修お疲れ様でした。オレンジ色のスタッフTシャツで、幡多の事務職員がひとつとなって県大会を無事終了することができました。大会の様子を少しだけですが写真でお届けします。

あすなろ作成委員に新加入です!!

またまた! あすなろ作成委員に新しいメンバーが加わりました!

土佐清水市の清水中学校、さんです!!

作成委員一同、とってもよろこんでいます。これからは、5名でパワフルに頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。